

第14回循環器病対策推進協議会	資料 2 - 1
令和 7 年 6 月 18 日	

コア指標の選定について

厚生労働省

健康・生活衛生局 がん・疾病対策課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

全体目標

2040年までに3年以上の健康寿命の延伸及び循環器病の年齢調整死亡率の減少

個別施策

循環器病：脳卒中・心臓病その他の循環器病

【基盤】循環器病の診療情報の収集・提供体制の整備 循環器病の診療情報を収集・活用する公的な枠組みの構築

1. 循環器病の予防や正しい知識の普及啓発

- 循環器病の発症予防及び重症化予防
- 子どもの頃から国民への循環器病に関する正しい知識（循環器病の予防、発症早期の適切な対応、重症化予防、後遺症等）の普及啓発の推進
- 循環器病に対する国民の認知度等の実態把握

3. 循環器病の研究推進

- 循環器病の病態解明、新たな診断技術や治療法の開発、リハビリテーション等に関する方法に資する研究開発の推進
- 科学的根拠に基づいた政策を立案し、循環器病対策を効果的に進めるための研究の推進

2. 保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実

- ① 循環器病を予防する健診の普及や取組の推進
- ② 救急搬送体制の整備
- ③ 救急医療の確保をはじめとした循環器病に係る医療提供体制の構築
- ④ リハビリテーション等の取組
- ⑤ 循環器病の後遺症を有する者に対する支援
- ⑥ 循環器病の緩和ケア
- ⑦ 社会連携に基づく循環器病対策・循環器病患者支援
- ⑧ 治療と仕事の両立支援・就労支援
- ⑨ 小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策
- ⑩ 循環器病に関する適切な情報提供・相談支援

循環器病対策の総合的かつ計画的な推進の確保のために必要な事項

- (1) 関係者等の有機的連携・協力の更なる強化
- (2) 他の疾患等に係る対策との連携
- (3) 感染症発生・まん延時や災害時等の有事を見据えた対策
- (4) 都道府県による計画の策定
- (5) 必要な財政措置の実施及び予算の効率化・重点化
- (6) 基本計画の評価・見直し

<循環器病の特徴と対策>



脳卒中の医療体制構築に係る現状把握のための指標例

健発0328第12号 令和5年3月28日
別紙3を元に作成

	予防・啓発		救護		急性期		回復期		維持期・生活期		再発・重症化予防	
ストラクチャー			脳卒中疑い患者に対して主幹動脈閉塞を予測する6項目(*)の観察指標を利用している消防本部数		脳神経内科医師数・脳神経外科医師数			両立支援コーディネーター基礎研修の受講者数			脳卒中患者の重篤化を予防するためのケアに従事している看護師数	
					脳卒中の専用病室を有する病院数・病床数						歯周病専門医が在籍する医療機関数	
					脳梗塞に対するt-PAによる血栓溶解療法の実施可能な医療機関数							
					● 脳梗塞に対する血栓回収療法の実施可能な医療機関数							
					脳卒中の相談窓口を設置している急性期脳卒中診療が常時可能な医療機関数							
					理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のそれぞれの人数							
					リハビリテーション科医師数							
			●		脳卒中リハビリテーションが実施可能な医療機関数							
プロセス		喫煙率		脳血管疾患により救急搬送された患者数		脳梗塞に対するt-PAによる血栓溶解療法の実施件数	●	脳卒中患者に対する療養・就労両立支援の実施件数			脳卒中による入院と同月に摂食機能療法を実施された患者数	
		特定健康診査の実施率			脳梗塞に対する血栓回収療法の実施件数				脳卒中患者における介護連携指導の実施件数			
		特定保健指導の実施率			くも膜下出血に対する脳動脈瘤クリッピング術の実施件数							
		高血圧性疾患患者の年齢調整外来受療率			くも膜下出血に対する脳動脈瘤コイル塞栓術の実施件数							
		脂質異常症患者の年齢調整外来受療率			脳卒中患者に対するリハビリテーションの実施件数							
					脳卒中患者における地域連携計画作成等の実施件数							
	アウトカム			救急要請（覚知）から医療機関への収容までに要した平均時間		退院患者平均在院日数						
				●		在宅等生活の場に復帰した患者の割合						
		脳血管疾患の年齢調整死亡率										

（●は重点指標）

（*）脈不整、共同偏視、半側空間無視（指4本法）、失語（眼鏡／時計の呼称）、顔面麻痺、上肢麻痺 の6項目

心筋梗塞等の心血管疾患の医療体制構築に係る現状把握のための指標例

健発0328第12号 令和 5 年3月28日
別紙 3 を元に作成

	予防・啓発		救護		急性期		回復期		慢性期		再発・重症化予防	
ストラクチャー					循環器内科医師数・心臓血管外科医師数		両立支援コーディネーター基礎研修の受講者数				慢性心不全の再発を予防するためのケアに従事している看護師数	
					心臓内科系集中治療室（CCU）を有する医療機関数・病床数		心不全緩和ケアトレーニングコース受講者数				歯周病専門医が在籍する医療機関数	
					心臓血管外科手術が実施可能な医療機関数							
					心大血管リハビリテーション料届出医療機関数							
プロセス		喫煙率		心肺機能停止傷病者全搬送人員のうち、一般市民による除細動の実施件数		急性心筋梗塞患者に対するPCI実施率	心血管疾患に対する療養・就労両立支援の実施件数					
		特定健康診査の実施率		虚血性心疾患及び大動脈疾患により救急搬送された患者数	●	PCIを施行された急性心筋梗塞患者数のうち、90分以内の冠動脈再開通割合			心血管疾患における介護連携指導の実施件数			
		特定保健指導の実施率				虚血性心疾患に対する心血管外科手術件数	心血管疾患患者における地域連携計画作成等の実施件数					
		高血圧性疾患患者の年齢調整外来受療率				大動脈疾患患者に対する手術件数						
		脂質異常症患者の年齢調整外来受療率			●	入院心臓血管リハビリテーションの実施件数						
							●	外来心臓血管リハビリテーションの実施件数				
アウトカム			●	救急要請（覚知）から救急医療機関への搬送までに要した平均時間	●	虚血性心疾患及び心血管疾患の退院患者平均在院日数						
					●	在宅等生活の場に復帰した虚血性心疾患及び大動脈疾患患者の割合						
	●	虚血性心疾患、心不全、大動脈疾患及び心血管疾患の年齢調整死亡率										

●は重点指標

第2期循環器病対策推進基本計画の中間評価の進め方

中間評価について、全体目標と個別施策について、以下のとおり分析・評価を進めることとする。
あわせて、都道府県の循環器病対策の進捗状況の公表、好事例の横展開を推進する。

① 全体目標について

- 2040年に向けた健康寿命の延伸の進捗状況を評価（令和6年度中に公表済）
- 2040年に向けた循環器病の男女別の年齢調整死亡率の減少の進捗状況を評価

② 個別施策について

- 第8次医療計画の策定指針等で定めている指標例を基に、①循環器病の予防や正しい知識の普及啓発、②保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実、③循環器病の研究推進のそれぞれの項目において、重点的に評価する指標（コア指標）を選定し、メリハリを付けてわかりやすく分析・評価する。
- 各施策に関する関係課室・省庁等の取組状況の把握を行う。

③ 都道府県ごとの循環器病対策の進捗状況の測定・公表と好事例の横展開の推進

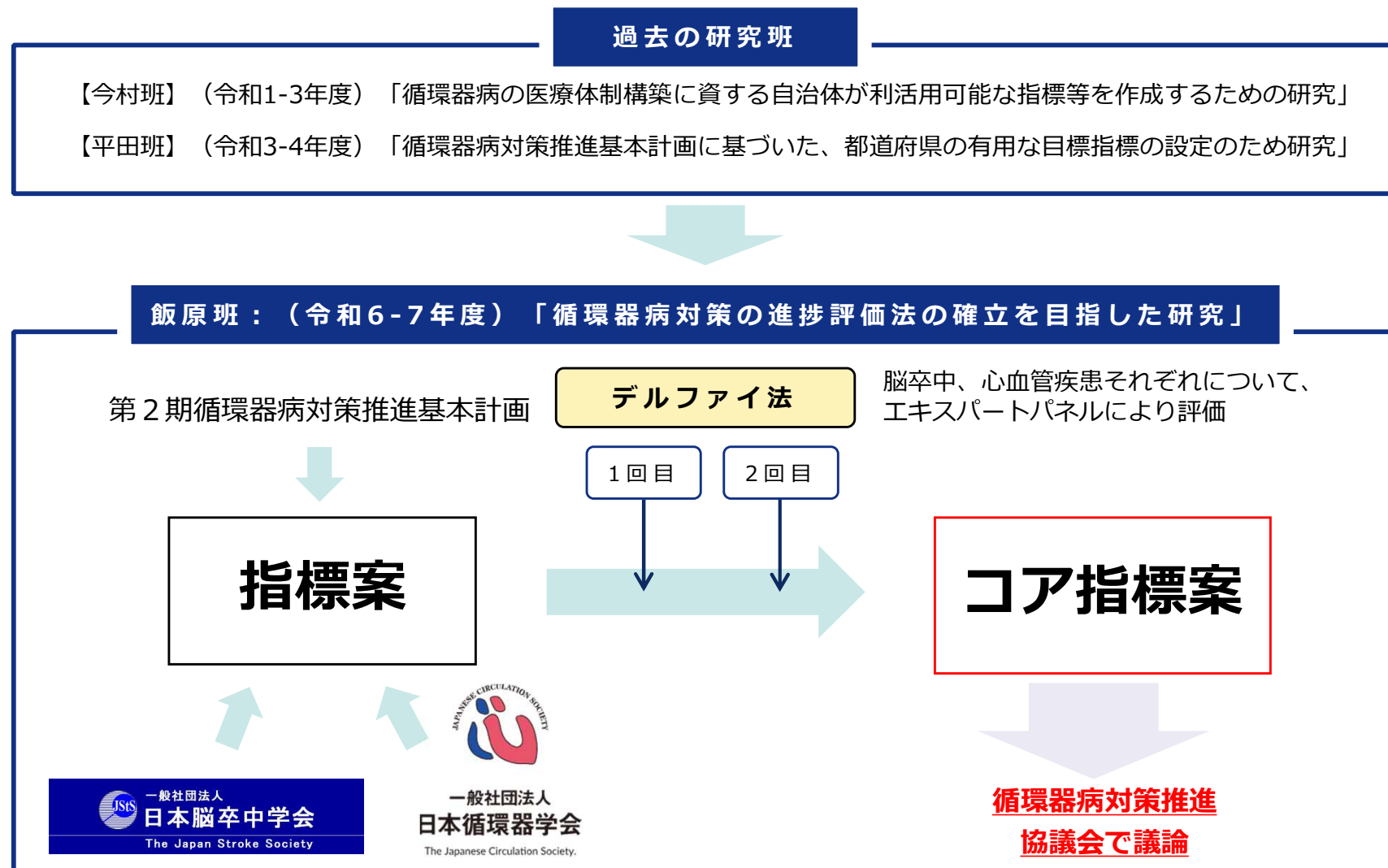
- 都道府県ごとの循環器病対策の進捗状況を評価するため、都道府県ごとに評価可能な指標については、可能な限り測定・公表をしているところ、今後、都道府県の循環器病対策を見える化しながら、地域の実情に応じたより良い取組の横展開を進める。

今後の進め方

- コア指標については、中間評価前（令和7年度夏頃）の協議会で指標案を示し、議論を行うこととする。
- その他、必要な検討課題（「脳卒中・心臓病等総合支援センター」のあり方等）について、個別に議論を行うこととする。

コア指標案選定における検討体制について

過去の研究班における検討を踏まえ、飯原班において、循環器病の当事者の意見を踏まえつつ、専門家による評価を経てコア指標案が選定された。



第2期循環器病対策推進基本計画におけるコア指標の選定について

これまでの経緯

- 第2期循環器病対策推進基本計画（以下「第2期基本計画」という。）においては、協議会の議論を踏まえ指標を作成し、「第2期循環器病対策推進基本計画評価指標一覧」として都道府県に提示した。
- 第2期基本計画において、「国は、計画期間全体にわたり、本基本計画の進捗状況を把握し管理するため、3年を目途に中間評価を行う。」としていることから、令和8年度を目途に中間評価を行う必要がある。
- 第13回協議会において、第2期基本計画の中間評価を行うにあたり、「①循環器病の予防や正しい知識の普及啓発、②保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実、③循環器病の研究推進のそれぞれの項目において、**重点的に評価する指標（コア指標）**を選定し、メリハリを付けてわかりやすく分析・評価する」こととなった。
- この方針を踏まえ、飯原班において、日本脳卒中学会、日本循環器学会と連携しつつ、循環器病の当事者の意見も踏まえながら、コア指標案を選定した。
- 第2期基本計画においては、「都道府県は、都道府県計画に基づく循環器病対策の進捗管理について・・・ロジックモデル等のツールの活用も検討する」としている。

今後の対応（案）

- 飯原班より選定された、第2期基本計画に係るコア指標案について、協議会で議論したうえで、中間評価を行ううえでのコア指標として決定してはどうか。
- コア指標を用いて中間評価を進めるにあたっては、ロジックモデルの考え方を取り入れて評価を行ってはどうか。